

令和 8 年度（第 22 回）若手農林水産研究者表彰 受賞者の業績概要

【農林水産技術会議会長賞】

受賞者	業 績 名	所 属
こじま はじめ 小嶋 創 36 歳	実被災データに基づくため池決壊時の浸水想定手法の開発	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門
東日本大震災や西日本豪雨などの決壊ため池を対象に、被災現場で収集した実データとの比較検証を積み重ね、浸水域予測手法の信頼性向上に取り組んだ。マニュアルの公開や技術研修による成果の普及を図り、全国のため池ハザードマップ作成を通じて地域の防災・減災対策に貢献している。		
たかだ まさつぐ 高田 昌嗣 37 歳	リグニンの構造制御と発光機能の利用による森林資源の高付加価値化	国立大学法人愛媛大学大学院農学研究科
木質バイオマス主要成分であるリグニンを対象に、熱化学処理に伴う分解挙動と構造変化を解明するとともに、遺伝子組換えや反応メディア制御により発光特性を制御する手法を開発した。本研究は、森林資源由来の新たな発光材料創製に向けた研究基盤を構築し、木質バイオマスの高付加価値化に新たな可能性を示した。		
たかはし めぐむ 高橋 徳 38 歳	ブロッコリー増収を可能にする新規栽培技術の開発	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門
ブロッコリーで、側枝を活用する「2 花蕾どり生産技術」と直径 20cm 級の「大型花蕾生産技術」の新たな栽培技術を開発し、青果用で 60%、加工・業務用で 3 倍の増収を実現した。全国各地の実証試験でも増収の再現性を確認し、省力化により労働生産性を 2.7 倍、所得を 1.5 倍に向上させ、生産性と国産品の競争力向上に貢献した。		

受賞者	業 績 名	所 属
ながさわ ゆうや 長澤 裕哉 39 歳	牛乳房炎に対する省力的で効果的なワクチン技術の開発	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門
粘膜免疫を増強する因子（ケモカイン）を併用することで皮下への単回投与により牛へ全身免疫および粘膜免疫を誘導し、粘膜感染症である牛乳房炎に対して高い防除効果を示すワクチン技術を開発した。現場の負担軽減に資する省力型ワクチンとしての普及が期待される。また、本技術は牛乳房炎のみならず、他の家畜や粘膜感染症への応用も可能であり、汎用性の高いワクチンプラットフォームとなる可能性がある。		
にしだ はんな 西田 帆那 35 歳	持続可能な作物生産に向けた根粒共生能力の向上技術の開発	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門
根粒菌とマメ科植物の根粒共生において、安定して根粒共生能力を発揮できるマメ科作物作出を目指し、土壌窒素栄養による根粒共生抑制の制御機構を解明した。また、根粒菌とダイズの親和性の人為的制御により、温室効果ガス一酸化二窒素（N_2O）を削減する能力を持つ根粒菌をダイズに優占的に共生させる技術を開発し、ダイズほ場から放出される N_2O の削減に成功した。		
ふなこし ゆうき 船越 裕紀 39 歳	二枚貝養殖環境の変動機構解明による被害防止と成育改善	京都府農林水産技術センター海洋センター
久美浜湾（京都府）の二枚貝養殖において発生していた大量斃死や成育不良の問題について、詳細な月次観測と高頻度の自動鉛直観測を実施し、海洋環境の変動機構を解明して原因究明に貢献した。この成果を活用し、リアルタイムの鉛直環境モニタリングに基づき、養殖深度を機動的に調整することで、被害防止と成育改善を実現した。本成果は、他海域で同様に発生する問題への対処にもつながる。		